

今月の

ブックトーク

4月号「新学期は大騒動？」

鈴木千尋／和光小学校学校司書

桜咲く春、学年が上がって新学期が始まりました。新しい友だちや先生にちょっぴりドキドキしている人もいるかもしれません。でも、実は緊張しているのは

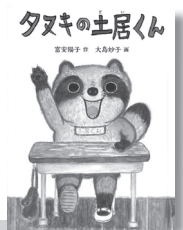


アダム・レックス・文
クリスチャン・ロビンソン・絵
ながわちひろ・訳
WAVE出版

子どもたちだけではありません。『がっこうだってどきどきしてる』この絵本の主人公は新しくできたばかりの学校。学校がどんなところか知らない「がっこう」は、とても心配です。やってきた子どもたちは乱暴だったり、「がっこう

なんて大きい」と言ったり。がっこうは腹を立てうっかり非常ベルを鳴らしてしまいます。でも、最初の日が終わるころには子どもたちと過ごす1日がちょっぴり楽しくなってきた…？ドキドキしているのは学校も同じ、と思うとなんだか少し気が楽になりませんか？

こちらの学校でも、新学期早々びっくりすることが起きました。『タヌキの土居くん』さんかく山のふもとの山下小学校は1年から6年まで児童はみんなで10人。ところが新学期最初の月曜日、3年生のアカネちゃんが登校すると隣の席の土



富安陽子・作
大島妙子・絵
福音館書店

居くんがタヌキになっていたのです！実は土居くん、もともとタヌキだったのですが新学期の目標が「なかよく、元気に、しょうじきに！」に決まったので正直にタヌキのままでいることに決めたのです。そんな土居くんにみんな驚きましたが、次第に受け入れて一緒に体操や合奏をして楽しい1日を過ごします。ところが、次の日学校に行くともっとびっくりすることが待っていました。それはいい…？こんなゆかいな学校、ちょっとお邪魔してみた

くなりますね。

さて、日本では4月から学校が始まりますが、海外では9月や3月に始まる場所もあります。『のぞいてみよう 外国の小学校』はいろいろな国の学校の様子がわかるシリーズです。新学期が始まる時期もさまざまですが、お休みの曜日など違いが多いことに気が付きます。チェスが必修の学校もあったり、授業より習い事を優先させてもいい国があったり、驚くこともたくさんありますよ。



全3巻
ERIKO・著
汐文社

こちらの9月スタートのアメリカの小学校でも、大騒動の1年が始まります。『合言葉はフレンドル！』ニックは面白いアイデアを次々思いつく男の子。3年の時には教室を南の島にしまったり、先生に絶妙なタイミングで質問して授業を半分潰したり。でも、5年になって国語の担当がグレンジャー先生になると、手強くて、思い通りにいきません。先生をどうにかやりこめたい一心で、ニックはある作戦を思いつきます。ペンをフレンドルと呼び、新しい言葉を広めることにしたのです。子どもたちが結託し、学校中で広まると先生はそれを



アンドリュー・クレメンツ・著
田中奈津子・訳
講談社

禁止します。でも、メディアに取り上げられ、町中、アメリカ中を巻き込んでフレンドルという言葉が大ブームになってしまいます。さてニックとグレンジャー先生の言葉の戦争はどうなるのでしょうか。

フレンドルという言葉がどうしてこんなに広まっていったか。最後まで読むとその素敵な秘密がわかりますよ。

